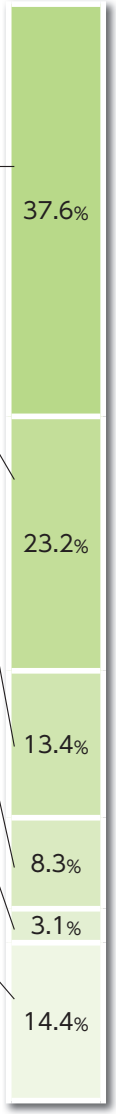
むろらんの決算状況

令和２年度の各会計の決算の概要と財政状況についてお知らせします。

一般会計　福祉や教育、道路整備など、市の基本となる事業の会計です。

歳入の市税や地方交付税が予算に対して増えたことなどから、約9.2億円の黒字となりました。

歳入総額　558億4,666万円



国庫支出金
210億　801万円
国から市に対して交付される補助金など

市税
129億6,183万円
市民税や固定資産税など

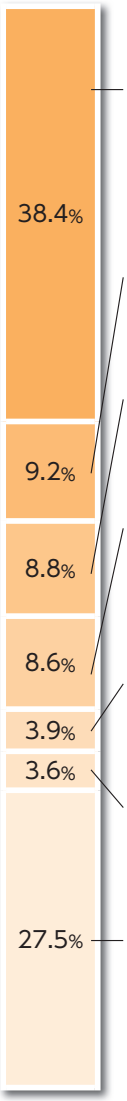
地方交付税
74億8,260万円
市の財政力不足などに応じた国からの交付金

市債
46億1,956万円
施設を建てるときなどに長期で借りる資金

諸収入
17億5,058万円
預金利子、貸付金収入、学校給食費など

その他
80億2,408万円
北海道から市に対して交付される補助金や使用料・手数料、財産収入、地方譲与税、繰越金など

歳出総額　549億2,997万円



民生費
210億7,121万円
子どもやお年寄り、障がいのある人などのための福祉

諸支出金
50億3,619万円
特別会計や企業会計への支出金など

職員費
48億4,833万円
職員の給料や退職金など

公債費
47億　715万円
施設を建てるときなどに長期で借りた資金の返済

土木費
21億5,523万円
市道や公園、市営住宅の整備など

教育費
19億9,326万円
小中学校や生涯学習、スポーツ振興など

その他
151億1,860万円
庁舎管理、災害対策、市民活動、保健衛生、産業振興、消防、港湾整備など

特別会計　一般会計とは別に、独立して経理を行う会計です。

国民健康保険	介護保険	後期高齢者医療
75歳未満の加入者が保険料を負担し合い、医療費を賄う制度です。	原則65歳以上の被保険者が、寝たきりなどで介護が必要となった時に必要なサービスを利用できる制度です。	原則75歳以上の加入者が保険料を負担し合い、医療費を賄う制度です。
歳入　85億5,243万円	歳入　77億7,103万円	歳入　16億6,407万円
歳出　84億3,550万円	歳出　76億6,784万円	歳出　16億2,695万円
差引　1億1,693万円	差引　1億　319万円	差引　3,712万円

企業会計　民間企業と同様に、利用料金収入などで運営する会計です。

単年度の企業の経営成績を表す収益的収支は、病院会計、港湾整備会計、工業用水道会計が赤字となりました。
また、資金の状況は、累積赤字を表す資金収支不足となった会計が、病院会計と港湾整備会計の2会計となりました。

用語の説明

●収益的収入、収益的支出
企業の経営活動で発生した全ての収益と、それらに対応する全ての費用

●資本的収入、資本的支出
将来の経営活動に備えて行う施設や設備の建設・改良に要する支出と、その財源になる企業債などの収入

水　道

給水戸数　4万4,836戸
給水人口　8万　697人
普及率　99.9%
千歳浄水場処理水流量計など施設更新および配水管更新を実施しました。

収益的収入	20億1,668万円
収益的支出	16億5,201万円
差　引	3億6,467万円
資本的収入	4億　934万円
資本的支出	13億3,222万円
資金の状況	13億　582万円

下水道

処理人口　8万　160人
普及率　99.3%
蘭東下水処理場および中島下水ポンプ場の設備の更新などを実施しました。

収益的収入	30億4,432万円
収益的支出	26億8,510万円
差　引	3億5,922万円
資本的収入	8億4,520万円
資本的支出	17億4,620万円
資金の状況	5,200万円

病　院

入院患者数　延べ13万1,122人
外来患者数　延べ17万　397人
薬剤業務支援システムの更新や無停電電源装置更新工事などを実施しました。

収益的収入	96億4,927万円
収益的支出	96億9,548万円
差　引	▲ 4,621万円
資本的収入	9億7,859万円
資本的支出	14億1,009万円
資金の状況	▲ 1億5,823万円

公設地方卸売市場

青果取扱量（令和2年11月までの実績）　7,007トン
水産物取扱量　3,650トン

収益的収入	1億7,297万円
収益的支出	1億5,715万円
差　引	1,582万円
資本的収入	6,208万円
資本的支出	7,284万円
資金の状況	9,216万円

港湾整備

臨港地区における倉庫上屋12棟、荷役機械1基、施設用地の貸し付けなどを実施しました。

収益的収入	3億　720万円
収益的支出	6億4,016万円
差　引	▲ 3億3,296万円
資本的支出	3,751万円
資金の状況	▲ 30億2,909万円

工業用水道

給水事業所の使用中止に伴い給水実績はありません。

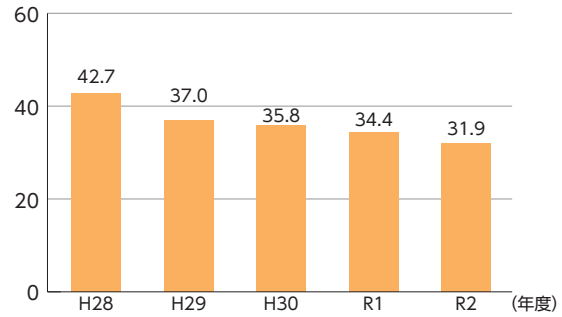
収益的収入	221万円
収益的支出	868万円
差　引	▲ 647万円
資金の状況	1億2,197万円

財政状況の推移　市の資金不足額等と基金等現在高です。

市の赤字（資金不足額等）

令和2年度末における企業会計の資金不足額等は31.9億円で、前年度末に比べて2.5億円、平成28年度末に比べて10.8億円減少しています。
これは、各会計における事務事業の見直しによる自助努力などが主な要因です。

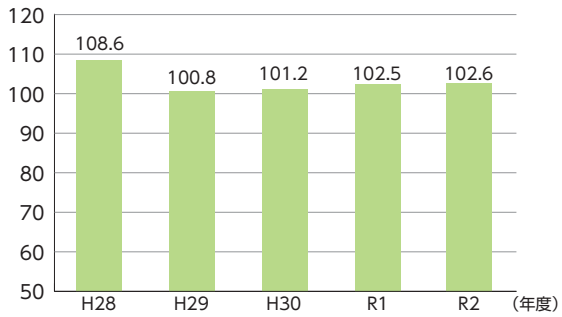
資金不足額等の推移　（単位：億円）



市の貯金（基金等現在高）

市の貯金である各種基金と備荒資金組合納付金の令和2年度末現在高は、合わせて102.6億円で、前年度に比べて0.1億円増加しています。
※基金は、土地を除く。

基金等現在高の推移　（単位：億円）



令和２年度　健全化判断比率・資金不足比率の公表

市町村は、毎年度決算時に財政の健全度合いを判断する比率を算定し、公表することが法律により義務付けられています。室蘭市の令和２年度の各比率をお知らせします。

健全化判断比率

地方公共団体の財政の健全度合いは、下表の実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率で判断します。この４つの比率を健全化判断比率といいます。

令和２年度決算に基づき算定した結果、前年度同様に国が定める基準を下回りましたが、今後も基準を上回ることがないよう引き続き行財政改革に努め、健全な財政運営に取り組みます。

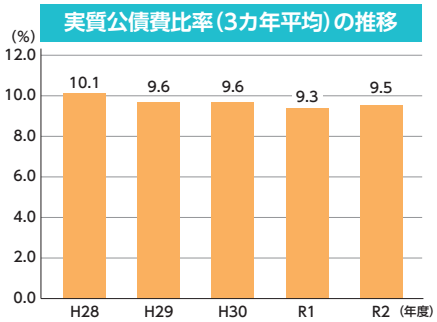
国が定める基準

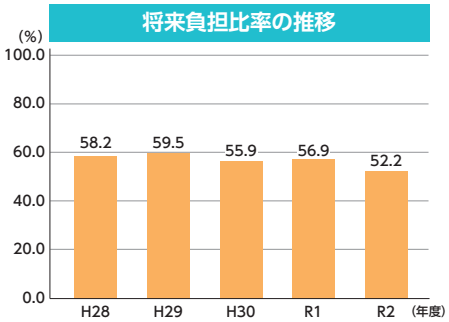
■早期健全化基準
（サッカーに例えると、イエローカード）
４つの比率が１つでもこの基準を超えると、財政健全化計画を策定し、自主的な財政健全化に取り組む必要があります。

■財政再生基準
（サッカーに例えると、レッドカード）
将来負担比率を除く３つの比率が１つでもこの基準を超えると、財政再生計画を策定し、国の監督下で財政再建に取り組む必要があります。

健全度合いを判断する比率	室蘭市	早期健全化基準（イエローカード）	財政再生基準（レッドカード）	道内35市平均値
実質赤字比率 一般会計の「年間収入」に対する一般会計の「赤字額」の割合 例 年収500万円の人に100万円の赤字があった場合、実質赤字比率は20.00パーセント（100万円÷500万円）となります。	黒字のため比率はありません	12.24%	20.00%	道内35市全て黒字のため比率はありません
連結実質赤字比率 一般会計の「年間収入」に対する室蘭市全体の「赤字額」の割合 ※室蘭市には一般会計のほか、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、水道事業会計、病院事業会計、港湾整備事業会計などがあります。	黒字のため比率はありません	17.24%	30.00%	道内35市全て黒字のため比率はありません
実質公債費比率（3カ年平均） 一般会計の「年間収入」に対する一般会計が負担しなければならない公営企業会計分などを含めた「年間の借金返済額」の割合 （年間収入の何パーセントを、借金の返済に充てているか） 例 年収500万円の人が年間175万円の借金を返済している場合、実質公債費比率は35.0パーセント（175万円÷500万円）となります。	9.5%	25.0%	35.0%	10.6%
将来負担比率 一般会計の「年間収入」に対する一般会計が負担しなければならない公営企業会計や第三セクター分などを含めた「借金の残高から貯金などを差し引いた金額」の割合（年間収入の何パーセントを充てれば、借金が全額返済できるか） 例 年収500万円の人に250万円の貯金と2,000万円の借金がある場合、将来負担比率は350.0パーセント（(2,000万円－250万円)÷500万円）となります。	52.2%	350.0%	－	66.8%

用語の説明
- **●年間収入**……収入全体のうち、国庫支出金などの使い道に制限がある収入を除いたもの
- **●年間の借金返済額**……返済額全体のうち、国からの支援額などを除いたもの
- **●借金の残高**……借金残高全体のうち、返済時に国からの支援を受けられる借金などを除いたもの





資金不足比率

資金不足比率は、水道・病院・市場・港湾・下水などの公営企業会計の経営の健全性を判断するための比率のことで、事業規模に対する赤字額の割合を表します。

令和２年度決算に基づき算定した結果、各公営企業会計とも資金不足額はありませんが、今後も引き続き経営の効率化に努め、健全な財政運営に取り組みます。

予算の執行状況などの詳細を記載した「財政事情説明書」は、12月20日から市ホームページまたは財政課（市役所本庁舎3階）でご覧いただけます。

《詳細》財政課 ☎25-2268

HP http://www.city.muroran.lg.jp/main/org2300/kessan.html